

2023年度入試
賢明学院中学校
A I 日程入学試験

2023. 1. 14 実施

国 語

(45分)

- ・ 答えはすべて解答用紙に記入すること。
- ・ 字数制限があるすべての設問において、句読点等も字数にふくめます。
- ・ 問題作成上、本文を一部改変しているところがあります。

受 験 番 号

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

他の植物たちと生育する場所をずらすことで、「密」を避けている植物がいます。昆虫などの小さな動物を捕らえて、栄養を吸収する植物たちで、これらは「食虫植物」といわれます。ですから、「食虫植物は、虫を食べるといふ、※一 瘴猛な生き物である」と考えられがちです。しかし、食虫植物には、生き残るために、昆虫を食べざるを得ない事情があったのです。

食虫植物として人気のハエトリグサを例に、昆虫を食べるのもやむを得なかつた事情を紹介します。この植物はモウセンゴケ科に属し、原産地は北アメリカです。「ハエトリソウ」や「ハエジゴク」などの名前で、エンゲイ店などで販売されることもあります。

この植物の葉っぱは、二枚貝が開いたような状態で向き合っています。二枚の葉っぱのまわりには、トゲがいっぱい生えています。一枚の葉の中には三本のトゲのような「感覚毛」とよばれる毛があります。ハエなどの虫がこの毛に触れると、二枚の葉がピタンと合わさるようにすばやく閉じて、葉と葉の間に閉じ込めてしまいます。この葉は、「捕虫葉」とよばれます。《 1 》

多くの植物は、光合成によって、生きるためのエネルギーや成長のための栄養を得ています。それに対し、食虫植物は「虫を捕らえて、食べて栄養としている」といわれます。そのため、「食虫植物は、光合成をしない」と思われがちです。

X、そうではありません。ハエトリグサは、いかにも動物のように生きているというインシヨウがありますが、この植物は、ふつうの植物と同じように、光合成のための光を吸収する色素である、緑色のクロロフィルをもっています。ですから、食虫植物は光合成を行います。「食虫植物は、虫を食べるから、光合成をしない」というのは、誤解なのです。

②食虫植物であるハエトリグサは、光合成を行いますから、日当たりの良い場所を好んで生活します。この植物は、「虫から栄養を得る」と思われていても、十分な光と水があれば、光合成をします。

ですから、成長や生きるためのエネルギーとなるデンプンは、自分でつくることができません。Y、光合成でつくることができないデンプンを求めてはいけません。それなら、「なぜ、虫を捕らえて食べるのか」という疑問がおこります。

実は、ハエトリグサが虫から手に入れているのは、タンパク質などの窒素を含んだ物質です。植物が生きていくために必要なタンパク質やクロロフィル、遺伝子などをつくるためには、窒素が必要なのです。

ハエトリグサは、タンパク質などをつくるために必要な窒素を、虫から取り入れる方法を見つけました。ちなみにこの方法は、そんなに※一 突拍子もないものではありません。私たち人間も、窒素を含むタンパク質などの栄養を、ウシやブタ、ニワトリや魚の肉から取っています。

Z、なぜ、ハエトリグサは、根から窒素を含んだ養分を吸収しないのか」という疑問が浮かびます。

実は、この植物の原産地は、北アメリカの窒素の養分をあまり含まない痩せた土地なのです。そのため、ハエトリグサは、土の中から窒素という養分を十分に吸収できません。そこで「虫のからだから、窒素を含んだ物質を取り込む」という能力を身につけたのです。そうすることで、③肥沃でない土地にでも生きていけるようになったのです。

ふつうの植物は、そのような養分が乏しく痩せた土地では生きていきません。ですから、「⑤そんなしくみを身につけてまで、肥沃でもない土地に生きる利点はあるのか」との疑問が残ります。

その答えが、他の植物と「密」になって育つことを避けることなのです。ハエトリグサは虫を捕らえ、虫から窒素を含むタンパク質を摂取する方法を身につけることによって、決して「密」にはならない。自分だけの生育地を。カクホしたのです。

「虫を食べて、窒素を含む栄養を取り込む」という能力を身につければ、生育地を奪い合う競争をせずに他の植物たちが育つことができないう土地で、「密」にならずに、生きていくことができるからです。

「必要は、発明の母」ということわざがあります。「発明王」といわれる、トーマス・エジソン（一八四七—一九三一）の言葉といわれることがあります。でも、ほんとうは、もう少し古く、一七二六年に、イギリスの小説家、ジョナサン・スウィフトがシユツパンした『ガリバー旅行記』の中に出てきたものとされています。《 3 》

ハエトリグサは、もともと古くから生きていてしょうから、このことわざを知っていたはずはありません。しかし、ハエトリグサのもつ、虫を捕らえる捕虫葉は、このことわざの一つの例といえるでしょう。《 4 》

ハエトリグサ以外にも、成長するための養分があまり含まれていない、肥沃でない土地に、セツキョクテキに自給自足で暮らしてきた植物があります。

※一 瘴猛 …… 性質が荒々しくて乱暴なこと。

（田中修『植物のいのち からだを守り、子孫につなぐ驚きのしくみ』より）

※2 突拍子もない …… 並はずれている。

問一——線部 a のカタカナを漢字に直して答えなさい。

問二——線部①「やむを得なかった」の意味を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 得をしなかった

イ 病気になるなかった

ウ 仕方がなかった

エ 止めなかった

問三—— X Z に当てはまる適当な言葉を次のア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じ記号は使えません。)

ア では イ なぜなら ウ そのため エ しかし

問四——線部②「食虫植物であるハエトリグサ」について説明している文として、正しいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 光合成をするので、水はけの良い場所を好んで生活する。

イ 自分でデンプンを作ることができ、光合成をしない。

ウ 虫を捕らえて、食べて栄養とし、光合成を行わない。

エ 緑色のクロロフィルをもち、十分な光と水があれば光合成を行う。

問五——線部③「なぜ、虫を捕らえて食べるのか」とありますが、その答えとなる次の文の に当てはまる言葉を本文中から十六字でぬき出して答えなさい。

生きていくためには、虫から取り入れる が必要だから。

問六——線部④「肥沃でない」と同じ意味で使われている言葉を本文中から九字でぬき出して、初めの三字を答えなさい。

問七——線部⑤「そんなしくみを身につけてまで、肥沃でもない土地に生きる利点はあるのか」とありますが、その答えとして「ある」なら

「A」、「ない」なら「B」と答えなさい。

問八——線部⑥「自分だけの生育地」を言いかえることができる言葉を本文中から十八字でぬき出して答えなさい。

問九 次の一文を本文中におぎなうとすれば、どこが適当ですか。《 ー 》 《 4 》 から一つ選び、算用数字で答えなさい。

そのため、私たちが植物を栽培するときには、土の中に不足しがちな窒素、リン酸、カリウムを三大肥料として、土に与えます。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

実際に出かけたのは、冬休みに入って二日ほど過ぎたころだ。

家族にはつりに行くと言い、朝早く家を出た。しーちゃんは、あちこちがさびたロケット式の大きな自転車に乗ってきた。よくそば屋さんや新聞

。ハイタツの人が乗っているような自転車だ。漕ぐたびにウシガエルの鳴き声のような音がして、ツーリングにはきわめて不向きそうだった。

「うっちゃん、そのいっぺんさんがどこにあるのか、ちゃんと知ってるんだろな」

出発直前に間かれたが、私自身行ったことがないので、あやふやな答えしかできなかった。祖母から何となく場所は聞いていたが、正確に把握しているわけではない。袴須まで行ければ、どうにかなるだろうと思っていたのだ。

「とにかく出発、出発！」

私が差し出した手の平をしーちゃんがグーで叩き、彼が差し出した手を私がグーで叩いて、私たちは十二月の風の中を小さな旅に出た。

どれだけの道のりが待っていたかも知らず、ただ勢いだけの(A)気持ちに支えられていた。地図で調べた直線距離が思ったより近かったことも、私たちを前向きにさせた一因だ。

だが実際は、まさしく苦行と呼べるような道のりだった。その大半が、起伏にトんだ山の中だったからだ。大人になった今なら、同じ道を自転車で走ろうとは絶対に思わない。あれは本当に、子供だからできた芸当だったのだと思う。

町の中を走っている間は快調そのものだった。背後を走るしーちゃんの自転車の音が耳触りだったが、しばらく聞いているうちに、私はその音に合わせてペダルを踏むようになった。まるでしーちゃんと同じ自転車を漕いでいるような気がして、不思議と楽しく感じたものだ。

山に入ってからが大変だった。町の中とは寒さが違って、肌を刺す冷気の中に小さなガラスの芯があるように思えた。私もしーちゃんもうすっぺらなジャンパー姿だったので、その冷気はこたえた。

途中、小さな屋根のあるバス停のベンチに腰を下ろして、私たちは家から持ってきたお弁当を食べた。その路線はとくに廃止されていて、バス停の。カンバンは錆にまみれ、何という名前かの停留所なのかさえわからなかった。

「外で食べるとなんでももうまいなあ」

そう言いながらしーちゃんは、アルミの弁当箱にご飯を詰め、海苔を敷いて醤油をかけただけのお弁当を食べていた。夜遅くまで働いている母親を起こすのが悪くて、自分で作ったのだと言っていた。

「ところでさあ……俺は白バイのお巡りさんになれますようにって頼むつもりだけど、うっちは、どんなことを頼むんだい」

とりあえずは野球選手になれますようにと頼むつもりだったが、実はまだ、はっきりとは決めていなかった。ウルトラマンになれるように頼んだら、どうなるかな……などと考えてさえた。実際、その時の私には、はっきりとした夢も希望もなかったのだ。

私が言葉を濁すと、しーちゃんはどこか悲しげな目で言った。

「いいなあ、うっちは……実は俺、本当はもう一つ、お願いしたいことがあるんだ」

「ちえっ、欲張りだな。どんなお願いだい？」

「教えてもいいけど、笑わないか？」

私があなずくと、しーちゃんは照れ臭そうに呟いた。

「俺、早く大人になりたいんだ」

「何で？」

「ほら、大人になったら、父ちゃんが暴れても、母ちゃんや弟たちを守ってやれるだろう？ だから、早く大人になりたい」

変な願い事だったら思い切り笑ってやろうと準備していた私は、口をつぐむしかなかった。彼はきつと、ごく当たり前に生きている私なんかより、子供の無力をずっとずっと深く噛みしめていたに違いない。

母に作ってもらったお弁当をじっと眺めながら、私は考えた。

「じゃあさ、その二つを一緒にしちゃうっていうのはどうだ？ 早く大人になって、白バイのお巡りさんになりたいって頼むんだよ。それだったら、ちゃんと一つじゃないか」

「なるほど！ うっちゃん、頭いい！」

その時のしーちゃんの輝いた顔は、今でも忘れることができない。

目的地の袴須に着いた時には、すでに昼の二時を過ぎていた。聞いていた通り、すっかり村は廃れていて、たまたま通りかかった家に袴須の住所表示を見つければ、危うく通り過ぎてしまうところだった。

その頃には私たちの体はすっかり冷え切り、足は今にもこおりそうにビクビクと震えていた。長い間サドルに腰かけていたせいで、おしりのすぐ下あたりが（B）と痛んで、まっすぐに立つのも辛かった。

私たちは、ひどく心細い気持ちになった。がんばって来てはみたものの、そこから先、どうすればいいのかわからない。

遠くの道を、一人の老人が歩いていることに気づいたのは、ちょうどそんな時だ。私たちは顔を見合わせてうなずくと、その老人の元に急いで自転車を走らせた。

「おう、子供を見るなんて久しぶりだなあ」

老人は私たちを見ると、しわだらけの顔をいっそうくしゃくしゃにして微笑んだ。

「何せ、ここにはもう年寄りしかおらんからな」

老人の。イヨウウさに黙り込んでいる私をちらりと見て、しーちゃんはいっぺんさんの場所を尋ねた。

「お前ら、いっぺんさんにお参りに来たのか。それまでしーちゃんに会話を任せていた私は、思わず口を挟んだ。」

「何でって、ほーれ、ここはもう、オガむ人間がいねえだろうが。オガまれない神様にやあ、何の力もねえんだよう」

そういうと老人は何がそんなに嬉しいのか、子供のようにならないうつらさを出して笑った。

私には、その老人が不気味なものに感じられて仕方なかった。ちよつとばかり、頭のネジが緩んでいるのかもしれない……と思った。

「まあ、でも、せっかく遠いところから、きつい思いをして来たんだ。オガむだけオガんでけばええ。わしについて来いや」

私としーちゃんは心中怖いものを感じながら、老人の後を自転車を押してついていった。

「お前ら、どう聞いてきたかは知らんけど、ちゃんとお願いのやり方、知ってるんかあ？」

道すがら、老人は何度も振り返りながら言った。私たちが話すのが楽しくてたまらないように、しわくちゃな笑みを絶やさなかった。

「ポンポンと手え打ってお願いします……だけじゃ、あかんだぞ。石を持って行かんとな」

「石？」

「そうだ。まずな、ほこらに着いたら、いっぺんさんにお参りするんじやが、そんな時にな、自分の願い事を叶えてくださいって頼むんだ。どんな願い事かは、そんな時は言わんでええ。その後、ほこらのそばをな、どこでもええから掘り起こすんだ。いっぺんさんがお前らの願いを聞いてくれるんなら、白くてきれいな石がきつと見つかる。それを家に持って帰って、誰にも見せねえように袋に入れて、ずっと持つてる。それで毎日、その石

が神様だと思って、自分の望みをお願いするんだ。そしたらいつか、必ず叶うから……ただし、いっぺんだけなあ」

(朱川湊人『いっぺんさん』より)

問一——線部 a のカタカナを漢字に直して答えなさい。

問二 (A) に入れるのに最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 悲しい イ 怖い ウ 楽しい エ 争う

問三——線部①「不思議と楽しく感じた」とありますが、それはなぜですか。本文中の言葉を使い、三十五字以内で答えなさい。ただし、「一体感」という言葉を必ず使用すること。

問四——線部②「しーちゃんはどこか悲しげな目で言った。」理由として考えられるものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 願う事がうかばないほど現状に満足している「私」と自分の差を感じたから。

イ 現状に問題意識がなく夢や希望を持たない「私」に対して憐れみを感じたから。

ウ 自分一人だけが「いっぺんさん」に夢中になっているような寂しさを感じたから。

エ 友情を感じている「私」に夢を教えてもらえず信用されていないように感じたから。

問五——線部③「もう一つ、お願いしたいことがある」とありますが、それはどんなお願いですか。本文中から十字以内でぬき出して答えなさい。

問六 (B) に入れるのに最も適切な語を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ちくちく イ じんじん ウ ざらざら エ ちりちり

問七——線部④「思わず口を挟んだ」理由としてもっとも適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア せっかく遠くまで願う事をしにきたのに奇妙な老人にバカにされたと思ったから。

イ 最初から老人を疑っていたのでそのまま老人の言葉を信じる気になれなかったから。

ウ せっかく苦労してここまで来たのにあっさりダメだと言われて腹が立ったから。

エ お参りできないことなど考えもしなかったのに急にダメだと言われ驚いたから。

問八——線部⑤「自分の望み」とありますが、「しーちゃん」がお願いしようとしている「望み」はどんな望みですか。六十字以内で答えなさい。

【三】 次の各問いに答えなさい。

問一——線部のカタカナを漢字に、漢字はひらがなに直して答えなさい。

① 試合でフシヨウする。

② 成功をオサめる。

③ 図をカクダイする。

④ シボウ事故を防ぐ。

⑤ 外国エイガの鑑賞。

⑥ 夕暮れ時に友人と会う。

⑦ 体を反らす。

⑧ 痛切に実感する。

⑨ おだやかな口調で話す。

⑩ 彼の意見に異存はない。

問二 次の慣用語の意味として適切なものを後のア～オから一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 虫が知らせる

② 馬が合う

③ 狐につままれる

④ 油を売る

⑤ 立て板に水

ア よどみなく話す

イ 意外なことにぼかんとする

ウ 予感がする

エ むだ話などしてなまける

オ 気が合う

問三 次の () () に漢字一字を入れて、①②③は類義語に、④⑤は対義語になるように完成させなさい。

① 同意 ≡ () () 成

② 原因 ≡ () () 由

③ 用意 ≡ () () 備

④ 安全 ⇕ () () 険

⑤ 増加 ⇕ () () 少